

## 再生自転車海外譲与 Q&A

**Q1. ムコーバから寄贈された再生自転車は、開発途上国では「命の足」と呼ばれているそうですが、説明してください。**

A1. 途上国で地域住民が医療機関に行くことには多くの困難があります。医師も医療機関の数も非常に不十分です。医師数を人口比で見ると、アフガニスタンは人口 10 万対 19.4 人、タンザニアでは同 0.8 人、ザンビアでは同 6.6 人（2013 年 WHO ヘルス・ワークフォース）です。タンザニアの数値は日本の 270 分の 1 です。途上国では医師が偏在し、都市部にはある程度の数の医者はいますが、農村には無医村が多くあります。ですから途上国では、仮に公共の交通手段があっても非常に限られた数の医療機関に行くことは多くの困難に直面します。地域住民にとり、医師と医療機関は身近な存在ではありません。このような現状で、村人が再生自転車で医療機関に行くことは命が助かることに直結しています。再生自転車は、アクセスが原因で落としていた多くの命を救っていることから「命の足」と呼ばれ、住民から感謝されています。再生自転車海外譲与自治体連絡会（以下、ムコーバという）の再生自転車は、診療を必要とする村人や女性をクリニックへ搬送し、また産前健診を受ける妊婦をクリニックに連れていく交通手段としても活躍しています。

**Q2. ムコーバから寄贈された再生自転車は、開発途上国では「二輪救急車」と呼ばれているそうですが説明してください。**

A2. ムコーバの再生自転車は「途上国の母子保健の向上」という目的を明確にして活用されています。世界では、妊娠や出産が原因で、年間では約 28 万 7000 人の女性が亡くなっています。これは 1 日に約 800 人、2 分に 1 人の女性が亡くなっている計算になります。その主な原因のひとつに、妊娠と出産に関わる緊急時に必要な治療を受けられず、妊産婦が命を落とすことがあります。妊産婦死亡の原因として、出血や感染症などに対する緊急医療の遅れがあります。このような時に、再生自転車に患者を乗せて「二輪救急車」として近くの医者へ駆け込むことができます。

**Q3. 開発途上国では、緊急時にタクシーで医者に行くことはできないのですか。**

A3. 途上国の農村ではタクシーはほとんど走っていません。貧しい村人はタクシー代が高くて支払うことができません。乗合バスがある地域でも、バス代が高いために諦めてクリニックに行かず、その結果、「手遅れ」で亡くなってしまうこともあります。乗合バスが運行していても定刻の運行はまれです。バス停で何時間も待たされたり、運行がキャンセルになったり、緊急時にバスを利用することは命がけです。

**Q4. 開発途上国では、四輪駆動車や乗用車を救急車として利用することはできないのですか。**

A4. 途上国の都市部では、数少ない救急車が利用されています。しかし、農村地域では救急車はほとんどありません。幾つかの理由があります。仮に救急車があっても、1リットルのガソリンやディーゼルの価格が村人の1週間分の収入に相当するほど高いため、継続して救急車を利用できません。救急車の修理に新しい部品が必要でも、乏しい財政の村役場や医療機関にとり、部品代は高く購入できません。その結果、救急車を維持管理できない状態に陥ります。地域保健の向上のために、四輪駆動車一台の代わりに自転車 100 台を贈って欲しいという要望が地域住民の声として上がる場合があります。自転車はガソリンやディーゼルの燃料代がかからず、緊急時でも自分の意思で家族や村人の協力を得て、いつでも自力で動かすことできる最も信頼できる輸送手段です。

**Q5. 開発途上国の農村地域では、自宅から医者や医療機関に行くことはどれほど大変なことかよく理解できません。少し分かりやすく説明してください。**

A5. 途上国の地域により状況は異なります。再生自転車を多く贈っているアフリカの国々の農村では、村落の自宅から近くのクリニックまでの距離が 10 から 20km、あるいは 50km も離れていることも珍しくありません。そのため、無医村に住む村人にとって、自宅から医療機関までの距離は徒歩で平均 5~6 時間はかかることもあるため、クリニックに向かう途中で、または村人の手作りの担架に乗せられてクリニックへの搬送途中で、応急処置が間に合わず、妊産婦が命を落とすケースもあります。

**Q6. 開発途上国の農村地域の村人は経済的な貧しさのために医療機関に行けないということですが、これに関連した国際機関の調査報告書はあるのですか。**

A6. 例えば、アフリカのタンザニアで 2010 年に実施した人口保健調査 (Tanzania Demographic and Health Survey 2010) に関する調査報告書 (2011 年 4 月発行、タンザニア政府、国連人口基金、世界保健機関、ユニセフ、米国国際開発庁、英国国際開発省他の合同調査) があります。アクセス (医療機関にたどり着くこと) にかかる問題が妊産婦の命を救うことと関連していることが指摘されています。全国平均で女性 (15~49 歳) の 19% が妊娠と出産で自宅から医療機関まで距離が遠いため行けないと回答しています。5 人に 1 人の割合です。特に貧しい地域では、39.9% の女性が医療機関まで遠いので行けないと回答しています。2.5 人に 1 人の割合です。この数値は、タンザニアだけではなく、多くのアフリカやアジアの国々に共通している現状です。

**Q7. 再生自転車は開発途上国で緊急の時に活用する以外に、どのように利用されているのですか。**

A7. 途上国の保健システムの基盤は脆弱です。特に農村地域の保健基盤は非常に弱いです。そのような現状の中で、妊産婦の健康と命を守る活動の要点のひとつに、緊急の事態に至る前に、定期的な地域住民への巡回指導や健康教育が必要です。このような日常の活動を行うために、地域の助産師や

フィールドワーカーの足として活用されています。フィールドワーカーが徒歩での家庭訪問や巡回指導が効率よくできます。再生自転車を利用すると、徒歩より2～3倍移動の時間を短くして、家庭訪問や巡回指導により多くの時間を割いて効果を上げることができます。

**Q8. 開発途上国のフィールドワーカーは、再生自転車を日常の母子保健活動でどのように利用しているのか説明してください。**

A8. フィールドワーカーの活動の現状は国々により少しずつ異なっています。例えばタンザニアでは、地域住民から選ばれた男女のフィールドワーカーは事前の研修を受けた後、再生自転車1台が提供されます。一人のフィールドワーカーは、受け持ち地域の人口、地域の面積、地形などを考慮して担当する住民の数を決めます。農村地域で人口密度が比較的高く平坦な地域では、再生自転車1台で約500人から800人の村人に対し、基礎的な母子保健サービス、カウンセリング、保健医療の情報を届けることができます。人口密度が低く広い地域を担当する場合は、一人のフィールドワーカーの受け持ちの人口は少なくなります。

**Q9. ムコーバから寄贈された再生自転車が開発途上国では「走る回覧板」、「動く薬局」と呼ばれているようですが、説明してください。**

A9. 再生自転車は患者を運ぶだけでなく、母子保健や医療関係者の足としても使われています。地域から選ばれた保健ボランティアが、村々を巡回し、母子保健や家族計画に関する情報を村人たちに伝える活動を行うための交通手段としても活用され、「走る回覧板」と呼ばれています。また、再生自転車を使って避妊薬（具）も配付し、「動く薬局」と呼ばれることもあります。

**Q10. ムコーバから贈られる再生自転車は日本の女性向け自転車（ママチャリ）ですが、開発途上国でどのように受け入れられているのですか。**

A10. 贈られる再生自転車はママチャリであるため、途上国の女性でも乗りやすいという利点があります。例えば、タンザニアでカンガ、ザンビアでチテンゲと呼ばれる布を女性が普段着として腰に巻き身につけて行動していますので、使いやすいという声があります。住民から選ばれた保健ボランティアの女性が「命の足」と呼ばれる再生自転車に乗って村々を訪問し、妊産婦と女性の命と健康を守る活動に積極的に取り組んでいる光景は、村々での母子保健活動の社会的シンボルにもなっています。

**Q11. 新品の自転車ではなく、再生自転車を日本から開発途上国に海外出荷する理由を説明してください。**

A11. ムコーバの再生自転車海外譲与は、国内の放置自転車対策の一環としてスクラップとして処分

するのはもったいないので、資源の有効活用と国際協力の一環として撤去した自転車の中から良質なものを選んで新品同様に再生し、途上国で母子保健活動の向上に貢献することを基本的なコンセプトとしています。ムコーバには、この趣旨に賛同する自治体、団体、企業等が協力しています。そして、再生自転車が現地のフィールドワーカーにきちんと届き、有効に活用されることを最も大切にしています。途上国の開発プロジェクトでの自転車のニーズは非常に大きいです。ですから、他の援助機関が現地で自転車を購入して幅広く活用することも大変良いと思います。

**Q12. 日本から再生自転車を海外譲与する輸送費用を、現地で自転車を購入する資金として使うことができますか。**

A12. ムコーバでは加盟自治体が再生自転車を提供します。それらの再生自転車を日本から海外に寄贈するための海上輸送手段の支援と海外輸送費の助成金を得ています。ですから、ムコーバの規定により、海外輸送費を途上国に送り、その資金を使って現地で販売されている自転車を購入することはできません。ムコーバは再生自転車を途上国に贈る活動を、多くの関係者のご理解とご支援により25年間継続しています。以前、イギリスでムコーバの活動を知った団体が、アフリカの国々で自転車を調達して現地の助産師に自転車を贈る募金キャンペーンを行いました。寄附金が集まらないために中止しました。

**Q13. 海外に寄贈する再生自転車は、どのようにして寄贈する国や団体を決めているのですか。**

A13. ムコーバからの再生自転車寄贈を要望する団体に事前に連絡して、再生自転車の台数、用途、報告義務、現地での通関等に関わる諸手続きと経費等の確認をします。そして各国からの要望台数をまとめ、ムコーバの総会で承認を得ます。年間の再生自転車の出荷時期は、ムコーバ加盟自治体と途上国の受入団体と調整して決めます。

**Q14. 再生自転車の元は放置自転車ですが、海外譲与する自転車の品質をどのように保っているのですか。また元の自転車を所有していた所有権はどのように処理しているのですか。**

A14. 海外譲与の自転車は、各自治体が条例に基づき撤去した放置自転車を一定の保管期間内で所有者に連絡し、引き取らなかった自転車について所有権の抹消手続きをしています。そして、新品同様に再生できる自転車を選び、ムコーバで定められた整備基準に基づき加盟各自治体が整備点検し、稼働確認と安全確認をした上で、新品のパーツを添えて品質の高い再生自転車として途上国に寄贈しています。海外譲与する前に、寄贈する自転車の防犯登録の抹消手続きをし、個人情報保護にも配慮しています。途上国の再生自転車の利用者からは、品質の良い再生自転車の使途が明確な目的をもつ海外譲与に対し、国際的信用と高い評価を得ています。

**Q15. 開発途上国で一般に売られている自転車はどのようなものですか。**

A15. ムコーバが主に再生自転車を寄贈しているアフリカ諸国では、中国製とインド製の自転車が売られています。現地で購入できる自転車は、男性が乗ることを基準にしたフレーム構造となっています。途上国では、主に都市部でしか自転車は購入できません。農村地域で自転車を購入しようと思っても販売店がありませんので、簡単には入手ができません。最近、中国製とインド製でも、途上国でも女性が乗れるようなフレームの自転車が一部販売されています。

**Q16. 開発途上国のフィールドワーカーにとって、再生自転車が母子保健に取り組む意欲を高める効果があると聞きました。どのようにして意欲が高まるのか説明をしてください。**

A16. 途上国の貧しい農村では女性の社会的地位が非常に低く、現地では高価な自転車に女性が乗ることは一般的にあまり認められていません。再生自転車は、現地の母子保健向上のために有効活用してほしい旨を明確にしていますので、再生自転車を受け取る団体や地域で影響力ある村長や指導者も納得して、経済的に貧しくても地域の母子保健の向上に積極的な貢献する意欲の高い女性のフィールドワーカーに再生自転車を配付することに協力します。このことが、地域社会で女性の社会的地位の向上に繋がります。フィールドワーカーは再生自転車が寄贈されることで、社会から自分が期待されている社会的役割の大きさと責任感を認識します。そして、フィールドワーカーとして再生自転車を利用して母子保健活動に積極的に取り組む意欲を高めます。その結果、草の根レベルにおける母子保健活動は活性化し、地域住民もフィールドワーカーの大きな貢献に感謝をします。これらが好循環して母子保健活動は向上します。1台の再生自転車が、途上国の母子保健と女性の社会的地位の向上という効果的な相乗効果を上げている上記の例は、アフリカ、南アジア、東南アジア地域の国々でも共通です。

**Q17. 開発途上国で活用される再生自転車は母子保健活動への波及効果が大きいと聞きました。どのような波及効果があるのか説明をしてください。**

A17. 再生自転車と同じ品質の自転車を途上国で購入しようとする約1万円（100米ドル）です。途上国の人々の半年から1年分の収入に相当します。アフガニスタンの1人当たりの国民総所得（GNI）は410米ドル、タンザニアは540米ドル（ユニセフ世界子供白書2013年度版）です。タンザニアの1人当たりGNIは日本の100分の1以下です。この金額はGNI平均値であるため、現金収入が非常に少ない貧しい農村の一家の年収にも相当することは珍しくありません。そのため多くの村人は自転車を現金で購入する余裕はありません。このような経済的価値の高い再生自転車が、途上国の村人からも認知されたフィールドワーカーに個別に配付されます。村人の期待が寄せられているフィールドワーカーに再生自転車がピンポイントで手渡されます。ムコーバの再生自転車海外譲与

は、自転車を単に物資として途上国に寄贈しているというコンセプトではなく、相乗効果を高めるために適切に選ばれた士気の高いフィールドワーカーに配付され活用されることは、母子保健事業の継続性を高める非金銭的なインセンティブとしても効果を上げています。ポピュレーションカウンセル（米国）の「タンザニアの地域に根差す家族計画サービスのアウトプットとコストの要因に関する調査研究報告書」1998年版、米国国際開発庁の資金協力）でも、ジョイセフが支援したタンザニアのフィールドワーカーへの再生自転車の提供が投入した資金等のインプットに対してアウトプットが相対的に効果的であったことが国際的に報告されました。